〈金沢星稜大学　人間科学研究　第４巻　第２号　平成 23 年３月〉

日本におけるベル・カントの父，アドルフォ・サルコリの生涯

Adolfo Sarcoli, the father of “Bel canto” in Japan

直　江　学　美
Manami Naoe

〈要旨〉

西洋音楽受容の黎明期に，日本の声楽界に大きな功績を残し，晩年には日本における「ベル・カントの父」と称された，アドルフォ・サルコリ（1867-1936）の足跡をたどる。

サルコリは，来日してから亡くなるまでの25年間，即ち，明治末期・大正・昭和初期，日本の声楽界に大きな功績を残したとされた。実際，三浦環・関屋敏子・喜波貞子など優秀な歌い手を育てたが，彼女らの恩師であるサルコリの生涯は，明らかになっていない点が多く，現在の音楽界ではその存在さえもほぼ忘れさられている。

そこで筆者は，サルコリの日本での功績を再評価すべく，調査してきた。これまでに，サルコリの日本での活動が少しずつ明らかになってきたが，来日するまでの事，特にイタリアでの生活や経歴は未だほぼ不明である。サルコリのルーツや前半生の調査は，サルコリの正当な評価にかかすことはできない。

上記の理由から本稿では，筆者が機会を得て2010年の夏に訪れたイタリアでの調査結果を中心に，これまで明らかとなっていなかったイタリアでのサルコリ像を捉えてみたい。

〈キーワード〉
アドルフォ・サルコリ，ベル・カント，西洋音楽受容，声楽

１　はじめに

明治44年に突如来日した，イタリア人テノール歌手，アドルフォ・サルコリ。サルコリの生涯は，明らかになっていない点が多い。それは，東京音楽学校といった公の機関、いわゆる「官」に所属せず，亡くなるまで自宅，いわゆる「民」に留まり，公式の記録が乏しいからだと思われる。しかし，サルコリは当時の新聞に「わが楽壇最大の恩人」（『讀賣新聞』1936）とまで賞賛されている。故に，その生涯を明らかにし，その活動に光を当てることは，日本における西洋音楽受容の歴史を正しく検証していくためにも欠かせない。

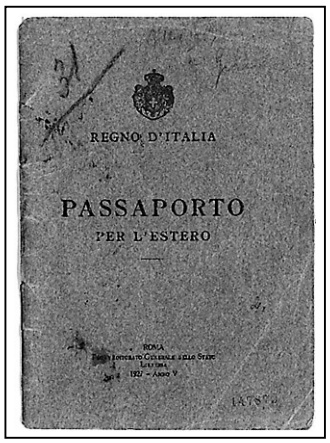
本研究では，まず，サルコリの人物像を明らかにしたい。そして，この先，サルコリの生涯を日本の西洋音楽受容の歴史と照らし合わせ，西洋音楽受容における「民」の存在を把握するための一端としたい。

２　アドルフォ・サルコリ

２−１　出身地とパスポート

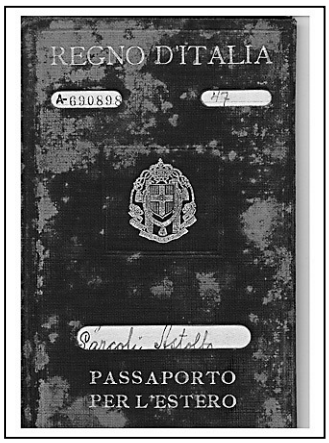
サルコリの出身地は，イタリアのトスカーナ地方にある都市，シエナ市である。サルコリが門下の名前を「シエナ会」と名付けているなどシエナに対する思い入れは深い。今のところ，来日直後に牛山充が書いた文章の中に「伊太利數千年來の音樂の都フローレンスで呱々の声を擧げられたのである」というフィレンツェ出身の一文もみられるが（牛山充 1911: 33），パスポート，その他を調べても，シエナとみて間違いないであろう。

2009年の調査で発見したサルコリの遺品の中に２冊のパスポートがある。１冊は1927年（写真1），もう１冊は1930年のものである（写真２）（写真３）。



（写真１）

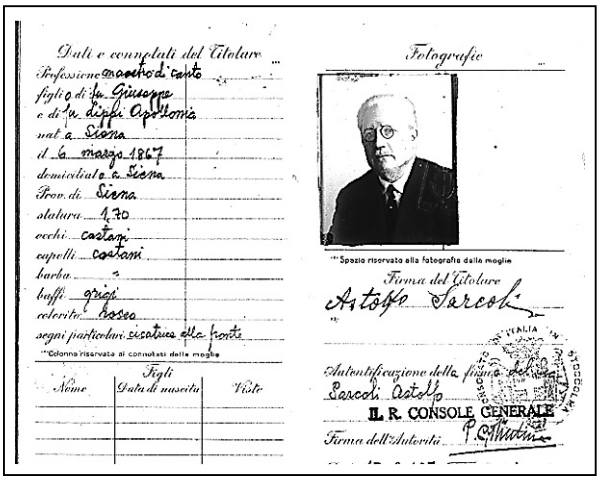
1927年：父ジュゼッペ（Giuseppe），母リッピ・アポッロニーア（Lippi Apollonia），1867年３月６日シエナ生まれ，シエナ在住，歌い手（Artista di canto），身長170センチ，62歳，額：高い，目：栗色，鼻：普通，口：ちょうど，髪：栗色，あご髭：栗色，口髭：ねずみ色，顔色，ピンク色，額に傷あり。



（写真２）

1930年：声楽教師（maestro di canto），父ジュゼッペ，母リッピ・アポッロニーア，1867年３月６日シエナ生まれ，身長170センチ，目，栗色，髪の毛，栗色，あご髭，栗色，口髭，ねずみ色，顔色，ピンク色，額に傷あり。

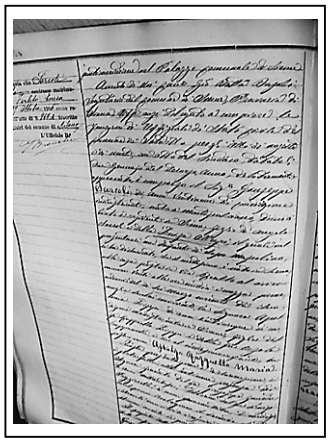
記載事項をみると，サルコリの職業が1927年時点では，アーティストとなっているのが，1930年にはマエストロとなっている。パスポート以外に，この間の職業を記載したものはまだ見つかっていないが，少なくとも４年の間にサルコリの職業に関する記載が「歌い手」から「教師」に変更されているのが分かる。



（写真３）

２－２　COMUNE DI SIENA ― シエナ市役所 ― での記録

2010年７月27日，シエナ市役所でサルコリの出生証明書[1]を発見した（写真４）。



（写真４）

役所の方より，記録の少ない時代にあって，サルコリの記述は多い方であるとの説明を受ける。その出生証明書（証明番号203，1867年）によると，1867年３月６日11時30分生まれ。男児。苗字はサルコリ，名前はアストロフォ。洗礼名はラファエッロ・マリア。父，ジュゼッペ，母，リッピ。1906年10月27日ミラノにおいて，フェルリート・テレーザと結婚（ミラノ市役所での証明番号　868/A）とあった。

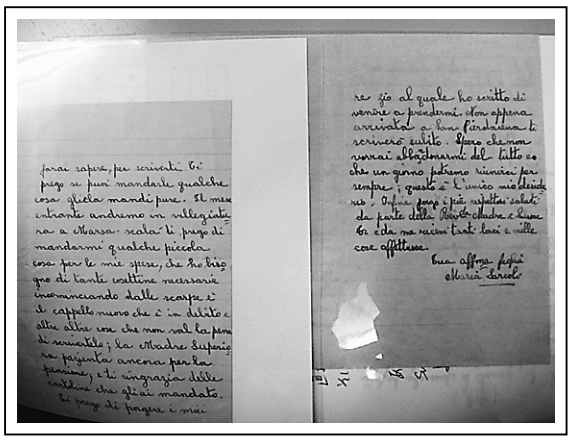
日本では，アドルフォ・サルコリで通っていたが，本名はアストロフォであることが分かった。アストロフォでは，日本人にとって発音が難しいためにアドルフォに変えた，あるいは日本人から呼ばれていつしか定着したことも考えられる。しかし，これまでに見つけられた資料の中で，名前が変わったことに関する記述は出てきていない。

また，これまで日本で，サルコリの生年に関してはいくつかの説がみられた。ほぼ1872年か1867年のどちらかとなっている。1872年生まれ説は，当時の「音楽年鑑」に記されていたとみられ（牛山充 1962：1），日本における文献の多くがこれに従っていた。1867年説は，没後に見られるようになる。また，墓石には1867年生まれとなっている（1999. 6. 3）。これ以外に，数は少ないが1874年，1875年もある。1875年生まれというのは，来日時に行われたインタビューでサルコリ自身が語ったものであり（牛山充 1911：33），1874年は，以前の調査で発見した彼のパスポートに記されている生年である。そのパスポート[2]によると，1874年５月26日シエナに生まれ，ミラノ在住，アーチスト，作曲者とある。しかし，今回の出生証明書の発見により，サルコリの生年に関しては1867年説が裏付けられ，最も有力となった。

出生証明書によると，サルコリは，1906年にテレーザという女性と結婚していたようである。また，出生証明書以外にも，サルコリの結婚を証明するものが，また，娘から

の手紙が多く見つかった（写真５）。それらの内容からも，妻，そして娘が一人[3]いたことは間違いないであろう。手紙の内容より，サルコリはミラノで結婚をし，妻にシエナの家を残して日本に来たようであるが，サルコリが来日したのは，結婚からわずか５年後の1911年。残されている手紙からは，結婚生活は様々な問題をかかえており，婚姻関係は数年で事実上破綻していた様子が見受けられる。一方，弟子の原信子が「私が二度目の渡伊の時，まだオペラで歌っていらした先生の夫人と，ヴェニスでマネージャーと結婚していられたお嬢さんに会いました。それは先生のお宅に飾ってあった写真の面影のお二人でした。」と，追悼音楽会のプログラムに寄稿した文章も残っている（原信子　1962：2)。原信子の二度目の渡伊の時期は，原がスカラ座に立っていた1928年から1933年までと思われる。ちょうど娘のマリア・サルコリから1931年７月27日付で，マルタ共和国コスピークワから送られた手紙[4]が残っている。「次の月の23日（火曜日），マルタから海路でジェノヴァに出発するわ。そこで伯父が私を迎えに来てくれるといいな」とある（マリア・サルコリ 1931)。これによると1931年８月23日に出発することになり，調べた結果，その年の８月23日は手紙と一致した火曜日であった。

地理的にも，ジェノヴァとミラノは近く，原信子の記述と一致することになる。おそらく1931年９月から，1933年の間であろう。



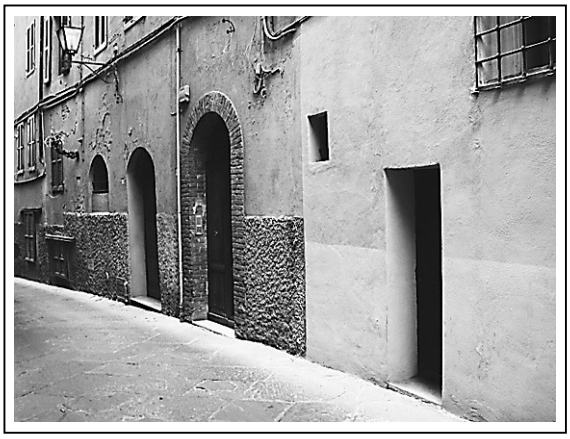
（写真５）

市役所で教えられたサルコリの住所は，Via del Rialto 20であった。その場所はシエナの中心街にあり，近くにはカンポ広場や市役所がある。また，市役所の方は，住所にあるリアルト通りは，ユダヤ人が多く住む場所であるので，憶測の域を出ないが，サルコリはユダヤ人ではなかったかとのことであった（2010. 7. 28)。

リアルト通り（写真６）へ行ってみると，どことなくユダヤ人街特有の暗い感じを受けた。

（写真６）

サルコリの住所と同じ番号は見当たらなかったが，それらしい場所に入口を見つけた（写真７）。



（写真７）

すぐそばには，サルコリが生また時代から続くオステリアがある（写真８）。写真に見られるように，整備されてはいるものの，現在でも古い面影が色濃く残っている通りである。

（写真８）

また，通りの近くにはシナゴーク[5]があったが，筆者が調査のために滞在している間，扉が開くことはなかった。

３　まとめ

今回の調査で，これまで，ほとんど不明であったサルコリが来日するまでの一端，特にイタリアでの出生の記録が，証明書の発見により明らかとなった。まずは，サルコリのファーストネームが，アドルフォではなくアストロフォであったこと，これまで諸説あった生年月日が明かになったことは，この先の研究に役立てられる成果であろう。また，この先の調査につながる，ミラノでの結婚届けの番号や，住所等が分かった。

今回の成果を，今後の研究に生かし，時代を経て忘れ去られようとしているアドルフォ（アストロフォ）・サルコリの存在を今一度復活させる足掛かりとしたい。

［本研究は，文部科学省より科学研究費：若手研究B（21720059）の助成を受けたものである。］

注

(1) 出生証明書の記載内容：ATTO DI NASCITA N.203 ANNNO 1867 SARCOLI ASTOLFO /Il giorno seo del mese di Marzo/dell' annoMilleottocentosessantasette/alle ore Undici e minuti Trenta/un bambino di sesso maschille con il cognome di SARCOLI/ed il nome di ASTOLFO/altri nomi successive al primo:RAFFAELLO MARIA/Paternita' : GIUSEPPE/
Maternita' : LIPPI/Annotazioni:Contratto matrimonio con / FERLITO TEREZA il 27/10/1906 in Milano.（Atto N.868/A）

(2) パスポートの記載内容：figlio di fu Giuseppe e fu Apollomea Lippi/Uato a Siena il26 maggio 1874 residente a Milano in Provincia di Milano/di condizione artista Conpositore

(3) Maria Sarcoli（マリア・サルコリ）。事情があり，サルコリの妻と生活は共にせず，マルタ共和国のサン・ジュゼッペ修道院で暮らしていたようである。

(4) Martedi 23 corrente mese partirò da Malta diretta a Genova per mare, e la spero trovare zio al quale ho scritto di venire a prendermi.

(5) 住所：vicolo delle Scotte 14, Siena

参考文献

『読売新聞』1936「サルコリー翁」。３月13日付。
牛山 充 1911「アドルフォサルコリ氏と語る」。『音楽』（東京音楽校學友會），第２巻12号，33-34頁。
原信子1962「思い出」。プログラム『ア・サルコリー先生25周年追悼音楽会』，２頁。
牛山充 1962「追悼のことば」。プログラム『ア・サルコリー先生25周年追悼音楽会』，１頁。
マリア・サルコリ　1931　書簡。7月27日付。